

小児神経学の進歩

第4集

日本小児神経学研究会編

責任編集 福山幸夫

東京都新宿区河田町10
東京女子医科大学小児科学教室内
日本小児神経学研究会

株式会社

診断と治療社

目 次

I 小児神経疾患へのアプローチシリーズ

1. 診察法……………前川 喜平 …… 1
2. 神経疾患と免疫……………井形 昭弘 ……26
3. 疫学的および遺伝学的手法……………近藤喜代太郎 ……52
4. 小児神経眼科……………植村 恭夫 ……97

II 小児の不随意運動シリーズ

1. 不随意運動の観察と考察——映画供覧による——……………平山 恵造 …… 115
2. Wilson病, Lesch-Nyhan 症候群, ……有馬正高, 北原 侑 …… 126
SSPE の経験例を中心として 高田邦安, 山本正士
3. 不随意運動の病態生理……………柳沢 信夫 …… 144
4. カテコラミンと神経系……………水野 美邦 …… 193

III 小児けいれんシリーズ

1. てんかんの病態生理……………朝倉 哲彦 …… 216
——てんかん源性焦点と聴原発作の神経生物学——
2. 小児てんかんの診療における臨床脳波の意義……………大田原俊輔 …… 254
3. てんかんの生化学……………森 昭胤 …… 278
——とくにアプローチの方法について——
4. けいれん重積状態の診断, 病態生理, 治療……………福山 幸夫 …… 298

IV カンファレンス

1. クリニカル カンファレンス ……出題者 河野 登 …… 327
司会 鈴木 昌樹
——四肢痙直, 強直発作, 心雑音, 血性髄液を
呈して死亡した新生児例——
2. 臨床病理カンファレンス……………出題者 落合 幸勝 …… 339
堀田 秀樹
奥山 裕子
熊谷 公明
熊谷 豪瑩
司会 熊谷 公明
——痙攣を主訴とし, 発育遅延, anisocoria, 脳室内
腫瘍の認められた1例——